

5月～6月（告知） のりた

時 開催時間 対 参加対象
所 開催場所 申 参加方法
¥ 参加費 持 持ち物
定 定員(選択方法)

5/11 土 むらさき麦まつり

松尾芭蕉が句に詠んだ”むらさき麦”の麦穂が紫色に染まる時期に毎年開催される藤川宿のイベント。歴史や文化を感じられる「藤川宿スタンブラー」や特産のむらさき麦を使用した各種商品の販売、試食などの企画が盛りだくさん。

時 10:00～15:00
所 藤川宿一帯
¥ 無料(一部有料)
申 不要。当日、直接お越しください。

5/12 日 なごみんフェスタ 2019

市民と地域団体の交流を図ることを目的としたイベント。歌やダンスなどのステージ発表、俳句や絵手紙などの作品展示、マジック、着付けなどの体験のほか、食品や小物の販売も行います。

時 9:30～15:30
所 なごみん全館
¥ 無料(一部有料)
申 不要。当日、直接お越しください。

5/12 日 矢作の魅力発見！ まち歩きツアー

矢作町のおまつり「花のとう」での協賛イベント。誓願寺にて住職のお話が聞けるほか、自慢の山車の説明や老舗のお米屋さんのこだわりなどから地域を知ることができます。

時 13:00～16:30 所 やはぎかん(集合)
¥ 無料 定 15名(先着順)
申 必要。4/20(土)より受付。定員に達し次第、申込締切。直接または電話にて、やはぎかんへお申し込みください。

5/13 月 岡崎市(市民協働推進課)×りた×OKa-Biz 特別コラボセミナー 「鈴木美穂の これまでとこれから」

がん闘病生活を乗り越え、がん患者とその家族などを支える相談センターを設立した鈴木氏(元日本テレビ記者・キャスター)。人々に思いを伝え、仲間を巻き込む術を学べます。

時 18:30～20:30
所 りぶら3階会議室
¥ 無料 定 50名(先着順)
申 <https://kokucheese.com/event/index/561095/>
【お問合せ】
岡崎ビジネスサポートセンター
Tel 26-2231 Fax 26-2232



6/2 日 お田植えみんなで アート

地域の行事「六ツ美悠紀斎田お田植まつり」に合わせて開催する、参加型アートイベント。ガラス絵、ローズウィンドウ、アートフラワーのコラボにより、約2m×8mの壁面ガラスに一つの大きな作品を作り上げます。

時 10:00～12:30 所 悠紀の里 交流スペース
¥ 無料 定 25名(先着順)
対 幼児～大人(小学2年以下は要保護者同伴)
申 必要。直接または電話にて、悠紀の里へお申し込みください。

6/9 金 よりなん防災講習会

防災意識向上を目指した講習会。「耐震化と家具転倒防止」、「何を備えるべきか?」、「こんなもので防災グッズ!」など、大地震発生時に役に立つことを学んでみませんか。

時 9:15～12:00 所 よりなん館内
¥ 無料 定 60名(先着順)
申 必要。直接または電話にて、よりなんへお申し込みください。

NEWS

／ 岡崎NPOコラボひろば(愛称おかぶら)を各センターで展開します ／

おかぶら

おかぶらは、岡崎市内で活動する市民団体(NPO等)や社会貢献活動に関心のある個人・企業が集まり、活動発表や特定のテーマでの意見交換、マッチングの機会を提供する場です。

これまでは、図書館交流プラザ・りぶらを拠点としていましたが、2019年度からは地域交流センターでも開催します。



▼開催テーマと予定

センター	テーマ	予定月
やはぎかん	[防 災]	6月8日(土)★
むらさきかん	[地域おこし]	7月21日(日)★
なごみん	[ボランティア]	9月★
悠紀の里	[子育て]	10月★
よりなん	[高齢者]	2020年2月★

※「おかぶら」は、岡崎NPOコラボひろば(おかざき+NPO+コラボレーション+ひろば(プラザ)の略称です。

★各事業の詳細は、館内に掲示するポスター・チラシをご覧ください。

お問合せ	よりなん	59-3600	むらさきかん	66-3066	市民活動センター	23-3114
なごみん	やはぎかん	33-3665	悠紀の里	57-5050	まち育て推進チーム	23-2888

まちのミカタ

Litaracy

2019.05 vol.98

発行・編集



特定非営利活動法人

岡崎まち育てセンター・りた

〒444-0031 愛知県岡崎市梅園町3丁目6-6
TEL(0564)23-2888 / FAX(0564)23-2898
<http://www.okazaki-lita.com/>
<https://www.facebook.com/okazaki.lita/>

配布

岡崎市図書館交流プラザ・Libra / 岡崎市内の地域交流センター
会員宛へ郵送 等 ※会員登録をご希望の方は左記までご連絡ください。

配布協力

岡崎市役所各支所 / 岡崎市各市民センター / シビックセンター / FMおかざき / 杉くんの駄菓子屋 / angelshare / cafeくらがり / 松應寺

まちのミカタ

Litaracy

ーりたらしいー

98

2019年5月



特集

人と人をつなぐ写真で、まちの魅力を伝える「岡崎カメラがっこう」

岡崎の魅力を発信する市民を育てることを目的に「岡崎カメラがっこう」を実施しました。

スマートフォンが普及したことから、誰もが気軽に写真が撮れて、すぐにSNSですぐに発信できる昨今、まちの魅力を伝え、「いいね!」と共感を呼ぶ写真は、どんな写真でしょうか。

広告写真のような公的な写真でもなく、家族写真のような個人的な写真でもない、そのちょうど間ぐらいにあるのが、地域の人と人をつなぐローカルフォト。その地域に暮らしているからこそ撮ることができる写真、その写真からその地を訪れてみたくなる

(※ りたはこの取り組みの企画・運営、取材先のコーディネートなどを行いました。)

ローカルフォトでの情報発信に、今、注目が集まっています。

今回の講座では、ローカルフォトの名付け親で、その活動を行う写真グループ「小豆島カメラ」を立ち上げた写真家のMOTOKOさんと、同グループで活動する岡崎市出身の三村ひかりさんのお二人を講師としてお迎えしました。また泊まれる出版社「真鶴出版」を運営する川口瞬さんにもご参加いただき、ローカルフォトで大切にすることについて話をいただきました。実際にカメラを持ってまちを歩いたり、人と話したりすることから、写真でまちの魅力を伝える学びの場を提供しました。

人と人をつなぐ写真で、まちの魅力を伝える「岡崎カメラがっこう」

●12/18 『いいね！って思う写真ってなんだろう？』 はじまりのトークライブ

MOTOKOさんと三村さんとのトークライブから、岡崎カメラがっこうはスタートしました。小豆島カメラは、小豆島在住の女性7人が、日々の暮らしのシーンを撮影して、島の魅力を発信する「地域×カメラ」のプロジェクトです。5年前からはじまり、毎日1枚ずつ日々の暮らしの写真が更新されるWebサイトには、少なくとも1500枚以上の写真がアップされています。キーワードは「見たい、食いたい、会いたい」。特に「会いたい」が伝わる写真として、撮影させてもらう人とコミュニケーションをとって、顔の見える写真を撮ることの大切さを話されていました。



▲「見たい、食いたい、会いたい。小豆島に行きたい！」を発信する小豆島カメラ

●1/19・2/2 『カメラを持ってまちに出よう！』 撮影を実践してみるスキルアップ講座

1月・2月には、実際にカメラを持って歩きながら、まちの魅力を伝える写真を撮影するスキルアップ講座を行いました。事前のトークライブで話があった、まちの人とコミュニケーションをして、まちの人の顔が見える「会いたい」写真を撮ることを大切にしました。

取材をさせていただいたLa Himawari(ラ・ヒマワリ)では、“昔は1階で生地を選んで2階で縫製してもらうオーダーメイドのお店だったこと”、三浦太鼓店では、“伝統的な太鼓作りを守りつつ、八丁味噌の樽を使った太鼓という新しくチャレンジしていること”などのお話を伺いました。こうして実際に話を聞くことで、話をしてくれた人と距離が縮まり、近所の人と会話している時のような自然な表情を引き出せることを学んだのです。

この2日の講座を通して、まちの魅力を伝えるには、写真を撮らせてもらう人とコミュニケーションすることに加え、実際にお店のサービスを体験し、楽しむことが大切だと参加者は実感していました。まちの人との会話を楽しんだ参加者の写真は、SNSを通じて見た人にも「この人に会ってみたい」という写真になったのではないかと感じられました。

12月のトークライブでは「#岡崎カメラがっこう」でハッシュタグ検索をしても、岡崎城や東公園などの風景写真ばかりだったのが、スキルアップ講座後は200枚以上の魅力的な人の顔が見える「会いたい」写真があふれるようになりました。



▲連尺通りにあるLa Himawari(ラ・ヒマワリ)のご夫婦



▲修理中の太鼓を見せてくれた三浦太鼓店の5代目のご主人

●3/2 『考えてみよう！人とまちをつなげる写真って？』 振り返りのトークライブ

最後に、これまでの活動を振り返るトークライブを開催しました。トークライブの意見交換の中で、スキルアップ講座の参加者からは、「岡崎は好きだけど、どこが好きかわからなかった。人に会いに行行って話をすることで、いいまちだなと思えるようになった」「岡崎出身でないこともあり、岡崎があまり好きではなかった。この講座を通じて、まちの見え方がガラッと変わって岡崎が好きになった」など、ローカルフォトを通じて、第三者にまちの魅力を伝えたことにより、参加者自身がまちを好きになったという気づきもありました。

MOTOKOさんからは「みなさんの考える三歩先(ちよつと先)の未来を想像して写真を撮ってほしい。ここで出会ったみなさんがまちであった時お互いに声をかけて話をしたり写真を撮ったりしてください」というメッセージを、三村さんからは「自分の普段の暮らしの中で、カメラを持って出かけてみて、まちの人とコミュニケーションをとってみてください。そして、できれば撮影した写真を発信してもらえれば普段岡崎にいない私たちも見ることができてうれしいです」というメッセージをいただきました。岡崎のまちの人に会いたくなる写真が、“#岡崎カメラがっこう”の参加者から今も発信され続けています。



▲振り返りのトークライブ、参加者からも岡崎が好きになったという声を聞くことができました

3月～4月(報告)のりた

まち育て推進チーム

3/2

岡崎カメラがっこう トークライブ



講座などを振り返るトークイベントを開催。受講者がSNSで発信した“人の顔が見える写真”の効果について、講師を交えて意見交換を行いました。【50名参加】

やはぎかん

3/3

やはぎかん11周年春まつり



矢作地域で活躍する市民活動団体や地域団体(計40団体)と協働で周年記念イベントを開催。ステージ発表、体験、展示などで団体の活動を周知しました。【2,714名参加】

やはぎかん

3/9

やはぎ大楽2018 野菜づくり講座



2018年8月からはじまった野菜づくり講座(全3回、講師NPO法人おかざき農遊会)の最終回。これまでの振り返りと春夏の野菜づくりのポイントを学びました。【延べ38名参加】

市民活動支援チーム

3/9

春咲もりもり倶楽部「森づくり体験&交流会」



春咲の丘公園の樹林地を管理する「春咲もりもり倶楽部(りたが設立支援した団体)」がメンバーのスキルアップと仲間集めを目的とした体験会を開催しました。【16名参加】

市民活動支援チーム

3/14

NPOアウトリーチ支援成果報告会

りたが委員を務めている「NPOと行政の協働に関する実務者会議」による報告会。地域の協働を促進するために、窓口のみならず地域へのコーディネータの派遣(アウトリーチ型支援)の必要性が重視され、「中間支援組織(市民活動センター)の強化」が提言されました。
※りたは中間支援組織として、岡崎市の市民活動センターの運営を担っています。

市民活動センター

3/19

岡崎NPOコラボひろば(おかぶら)「今年度を振り返り、来年度を展望しよう」

岡崎で活躍するNPOや、社会貢献活動に興味のある個人、団体、企業が集まる情報交換会。昨年実施した活動の整理や情報発信、集客方法などの課題について話し合いました。また、「販路拡大のために情報収集をしたい」や「多様な分野で活動する人が情報交換できる場を積極的に作りたい」など意欲的な意見も伺えました。【8名参加】

まち育て推進チーム

4/10

おとがワ！ンダーランド2019説明会



乙川河川敷を活用する「おとがワ！ンダーランド」の説明会。今年4年目となるプロジェクトへの参加に必要な手続きの説明のほか、昨年度の報告や今年度の方針の共有を行いました。【約50名参加】

市民活動支援チーム

4/14

岩津北公園愛護運営会「春の一日」



りたが設立支援してきた「岩津北公園愛護運営会」が4/1に正式発足。「公園でステキな春の一日を過ごそう」をテーマに持ち寄りで住民交流のパーティを開催。【50名参加】